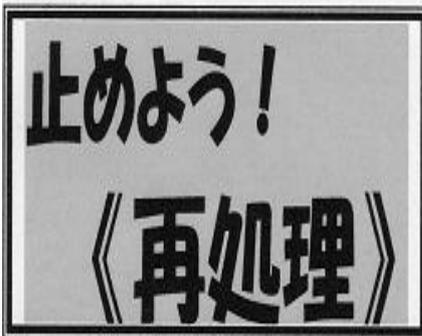


三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm
《まった再処理分庫》
http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag



《天恵の海》

2013(平成25)年
4月 5日
第125号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

＝再処理工場で生成した＝ 超危険な高レベル廃液をどうするのか!

「テロや火災・
電源喪失などの
事象への対策は今後検討する」

川田龍平参議院議員提出の
質問主意書への政府答弁



クリプトン85が工場周辺に立ち込めたとき、再処理工場では、超危険な高レベル放射性廃液を生み出す作業が行われていた。(2006～2008年がピーク)

二〇〇六年から強行された再処理工場のアクティブ試験により、使用済み核燃料が切り刻まれ溶解され高レベル放射性廃液が作られました。高レベル廃液は国内では、現在茨城県東海と青森県六ヶ所再処理工場に溜まっています。この廃液が万が一事故などで環境に漏洩すれば、福島原発事故の幾十倍もの被害をもたらすと予想されます。岩手の会など市民団体の要請もあり川田龍平参議院議員が、今国会中に「質問主意書」を提出し、このほど「政府答弁書」を受領しました。その大要を報告します。

*「質問主意書・政府答弁書・市民側コメント全文」は岩手の会ホームページにあります。

「高レベル放射性廃液」が非常に危険なわけ
核燃料サイクル再処理工場は、原発から出る「使用済み核燃料」を切り刻み溶解してプルトニウムとウランを取り出し再利用するための工場です。この工程で発生する「高レベル放射性廃液」は、強力な放射性物質の廃液で、人が近づけば放射線により十七秒ほどで死に至るとされます。崩壊熱を出すので絶えず冷却し続けなければなりません。放射線が分解発生するので絶えず取り除かねばなりません。すなわち停電で「冷却」も「掃気」も止まれば沸騰し、爆発することになります。この廃液が、ガラス固化の技術が未確立で、液体状態で工場に溜まっています。環境に飛散した場合の被害は想像を絶します。

再処理工場の「新安全基準」は本年中に策定

質問はまず福島第一原発事故により策定されなれなという原発や再処理施設についての「新安全基準」の制定作業について質しました。政府答弁書では原発や再処理に関わる「新安全基準指針」「災害対策指針」は本年一二月までに「原子力規制委員会」で検討するとしています。

厳格な「深層防護」の思想による対策を

特に審査を行う専門委員には、原子力推進機関関係者など「利益相反」の立場の人物の排除を質しました。また、再処理工場の防災について「厳格な前段否定」の考えを適用するべきとし、「高レベル放射性廃液の貯蔵槽がテロや火災により全電源喪失した場合どうするか」などを質しました。

政府答弁書では「具体的内容については、テロ対策や火災、電源喪失などが同時に多発する事象に対する対策も含めて、今後、原子力規制委員会において検討する」としています。なぜ「事故」ではなく「事象」なのでしよう。既に危険な廃液を溜めてしまったのに、今なお「今後検討する」とは無責任です。また、昨年二つの再処理工場から出された「ス

高放射性廃液 六ヶ所工場に五二京ベクレル 東海工場に二二〇京ベクレル

トレストテスト評価報告書』についてどう活用したのかと質しましたが、答弁書では「同評価報告書は規制委員会のホームページで公表している」、「今後安全規制見直しの中で検討する」とだけ記載されています。

再処理工場事故の放射能拡散予測は？

更に、「国は昨年、国内の一六ヶ所の原発で事故が起きた場合の『放射性物質拡散予測』を公表したが、東海と六ヶ所の両再処理工場では『拡散予測』を行っていないのは何故か」と質問しましたが、「再処理施設に係わる指針の見直し及び拡散予測については、今後、規制委員会が検討する」と答えています。驚いたことに「三・一一並みの津波が再処理工場を襲ったならどうなるか」という質問に、「外部への放射性物質の放出に至る可能性がどの程度かは評価していません」と記されています。

核種	放射能濃度
	(約) /m ³
ルテニウム106	310ギガBq
アンチモン125	1400ギガBq
セシウム134	25テラBq
セシウム137	2600テラBq
ユウロピウム154	31テラBq
アメリカシウム241	47テラBq
キュリウム244	44テラBq
全体量	*約520ペタBq
*セシウム137(推定)	202m³

ギガ	=10 ⁹	=10億
テラ	=10 ¹²	=1兆
ペタ	=10 ¹⁵	=千兆
10ペタ	=10 ¹⁶	=京(けい)

再処理工場に溜まっている高レベル廃液の量

これまで、実態が十分明らかではなかった『再処理工場に蓄積された高レベル放射性廃液』について質しました。この点について、答弁書では、

これまでよりも幾分情報を示しました。東海工場については原子力研究開発機構のホームページに公表していることとしました。(第一表)

廃液はガラス固化出来ずに溜まっている

東海再処理工場の廃液は「二九四立方メートル」で二〇一〇年来一向に減らず、危険な状態は変わ

東海再処理工場における高放射性廃液の保管状況 (第一表) 平成25年2月1日現在

貯蔵量:約394m ³	
Cs-137の総量 (推定値):1.2×10 ¹⁸ Bq	
放射性核種の平均放射能濃度 (推定値):下表のとおり	
放射性核種	放射能濃度 (Bq/m ³)
Sr-89	1.2×10 ⁻⁷
Sr-90	2.2×10 ¹⁵
Y-90	2.2×10 ¹⁵
Zr-95	4.4×10 ⁻³
Nb-95	9.6×10 ⁻³
Rh-103m	6.0×10 ⁻¹⁴
Ru-103	6.0×10 ⁻¹⁴
Ru-106	1.6×10 ¹¹
Rh-106	1.6×10 ¹¹
Te-125m	3.7×10 ¹¹
Sb-125	1.6×10 ¹²
Cs-134	8.5×10 ¹²
Ba-137m	3.0×10 ¹⁵
Cs-137	3.2×10 ¹⁵
Ce-141	7.1×10 ⁻²⁰
Ce-144	3.5×10 ¹⁰
Pr-144	3.5×10 ¹⁰
Pm-147	1.8×10 ¹³
Sm-151	5.5×10 ¹³
Eu-154	6.6×10 ¹³
Eu-155	3.5×10 ¹²
Np-237	1.4×10 ¹⁰
Am-241	5.3×10 ¹³
Cm-242	3.3×10 ⁶
Cm-244	2.6×10 ¹³

りなしです。六ヶ所工場の高レベル廃液の量が、これまでの「二四〇立方メートル」から「二〇二立方メートル」に三八立方メートルばかり減っています。これは、今まで未使用だった「Bガラス溶

融炉」の固化試験が行われ、本年一月までに二〇本ほどのガラス固化体が出来たとされていることと関係がありそうです。

核種ごとの濃度が示された

今回の「政府答弁書」によって初めて、一つの再処理工場の「高レベル放射性廃液の放射能濃度」が公表されました。(第一、二表 各欄)

東海工場の核種ごとの濃度を見るとストロンチウム90がかなりの量です。この核種は人間の骨に蓄積し、内部被曝による骨ガンや白血病が心配されます。一方、六ヶ所工場の資料にはストロンチウム90について欠落しているのはなぜでしょう。追加して資料を出すべきです。

この点について答弁書では、「今通常国会へ

再処理は、撤退しかない 両再処理工場に約一七二京ベクレルもの高レベル放射性廃液が溜まっている実態が明らかになりました。重大事故を起こさないように、早急に撤退するしか、進むべき道はありません。

放射性物質も環境法で規制

昨年の国会で成立した「原子力規制委員会設置法」の附則により、環境基本法第一二条「放射性物質の環境汚染は原子力基本法の定めによる」という部分が削除されました。環境基本法で一元的に規制されま

島田恵監督 ドキュメンタリー映画 一〇五分
福島 六ヶ所 未来への伝言
 四月十三日 午後二時
 アイナ 八階八〇二号室 (盛岡駅西口)
 大人 九〇〇円 中学生以下六〇〇円
 事前予約をお願いします。
 電話 〇一九一六四六一四六六六
 主催 ネットワークみどり